

広報7月15日 第4号

麻布乳児院

Azabu infant home だより

わたしたちの「理念」

- 個性の尊重
- 心身の健全な発達促進
- 家族や地域社会との連携

〒106-0047

東京都港区南麻布5丁目1番20号



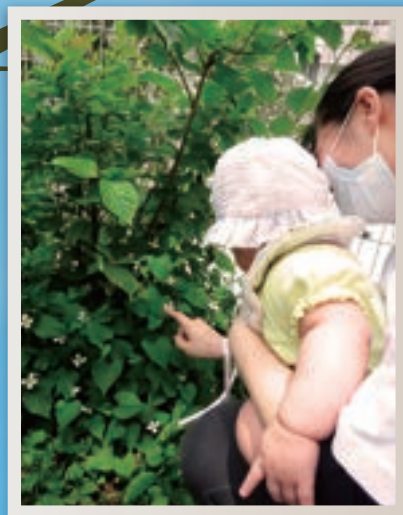
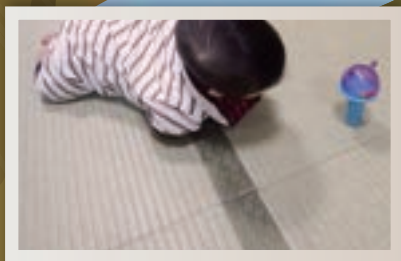
梅雨の晴れ間のかけっこ

主な記事

- 1 子どもの声
- 2 これまでの取り組み × 「ライフストーリーワーク」
- 3 ボランティアの方への感謝
- 4 養育体験棟が出来ました！
- 5 編集後記

広報誌「麻布乳児院だより」では、社会的養護の元にいる子どもの声をお届けすることを主眼としています。社会の一員として、ともに子どもの声に耳を傾け、一緒に考えていきたいと思っています。

子どもの声



「好奇心のはじまり」

0歳の乳児の声

「うんしょ!うんしょ!あともうちょっと!おしりをあげてから、からだを伸ばせば、とどくかも!」
(おともだちの頬をさわって)「あれれ!なんだかとても気持ちのいい手触りだぞ!?」「これが、どくだみのお花なのね!」

子どもの様子

最近、寝返りができるようになったダンボ室の子どもたち。動けることによって世界も広がり、色々なものに興味津々です。お部屋の中ではおもちゃ!…かと思ったら、それを持っているおともだちのぶにぶにほっぺ!外へ出れば、色の濃い草花に釘付けです。それらに触れたい一心で、手を伸ばしたり、届かなければ足を突っ張ってお腹を浮かせてみたり、寝返りをしたり…。誰に教わるでもなく、どうしたら目的のものまで近づけるのか、試行錯誤しながら一生懸命からだを動かし、がんばっています!

(ダンボ室 増田)

「発見の毎日」

1歳の子どもの声:

「ピ!ピ!」ジュースのボタンをみつけた!おすと「ピ!」ってなるのがおもしろくてだいすき。いっしょに押そうよ。ジュースはあるかな?のぞいてみよう。



子どもの様子

お花見でおでかけの日、子どもたちは自動販売機でジュースを買いました。それからというもの、自動販売機を見つけると、「ピ!ピ!」と言います。一生懸命に背伸びをして、ジュースのボタンを押した後は、嬉しそうな表情をこちらに向けてくれる姿が大変可愛らしいです。

(コネコ室 橋本)



日々、子どもたちがどんな風に感じているか、子どもからはどんな風に見えるか、
私たち養育者は子どもたちに寄り添って「子どもの声」を感じ、探求しています。



「こいのぼりをつくろう！」

1 歳の子どもの声

A ちゃん：のりちょうだい！
（こいのぼりの台紙に、うろこの形の折り紙を貼る）
ねえ～！できた！
B くん：お絵描きする！（ぐるぐる…）
C くん：C くんもやりたい！
D ちゃん：D ちゃんも！

子どもの様子

お庭に飾られたこいのぼりに興味津々のうさぎ室の子どもたち。「みんなでこいのぼりつくろっか！」と声をかけると嬉しそうに「つくる！」と答えてくれました。こいのぼりの台紙にうろこの形の折り紙を貼ったり、クレヨンで自由にお絵描きをしたりしました。“自分でやりたい！”という気持ちが大きく、養育者の手を借りながらも、集中して製作に取り組んでいました。後日、居室に完成したこいのぼりを飾ると、「これつくったの！」と嬉しそうに話している姿がとても印象的でした。（ビーバー室 柳田）

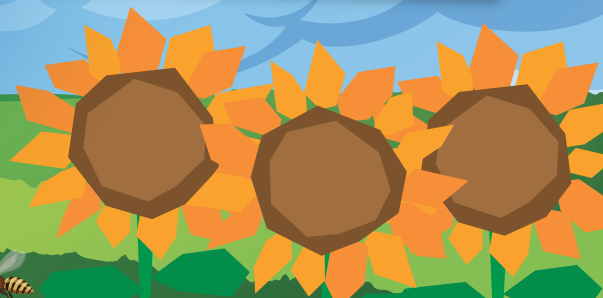
「魔法の部屋」

4 歳の子どもの声

「のーり、のーり、のーり」「まほうのすなを、サラサラサラ～」「すなをサラサラするの、すっこくたのし～」

子どもの様子

「いないいないばあっ！」の DVD に出てくる「ゆきちゃんの魔法の部屋」がお気に入りの E ちゃん。毎日飽きることなく観ていました。特に、パクコさんがリボンを作る場面が好きで、ひときわ大きい声を上げて大喜び。パクコさんと同じように糊を塗ったり、カラーサンドをふり掛けると、とても楽しそうに目をキラキラさせていました。その後、DVD で同じ場面を見ると、「同じことやった！」と言うようにテレビ画面を指さしていました。やってみたいと思ったことが出来た喜びや充実感を共有できた瞬間でした。（ミッキー室 石井）



これまでの取り組み

Previous communications × “Life story work”

「ライフストーリーワーク」

近年、乳児院においても「ライフストーリーワーク」という言葉を耳にすることが増えました。

私たちが本を読んだり、乳児院や児童養護施設、里親さんと話す中で少しずつ理解を進めていました。今回の特集では、養育者、家庭支援、心理士、それぞれの立場でこれまで取り組んできたことや感じてきたこと、大切にしていることを改めて言葉にしました。

これまで一人ひとりの子どもに寄り添って歩んできた取り組みと、「ライフストーリーワーク」が混ざり合い、今後より一層子どもたちの助けとなり、力になっていくことを願います。

心理

胎児期を含め年齢に関わらず、子どもたちが特別な人との間で一瞬一瞬どのように感じているかを大切に見ています。人の心は生まれてから様々な経験を通して地層のように積み重なり形づくられます。子どもたちの心が健康に育つために、子ども自身の心の保護者像がより温かいものと感じられる体験を大切にしたいと思っています。

乳児院利用に迷いを感じている保護者のエピソードです。その保護者は面会時元気に遊ぶ子どもの様子に安堵し、引き続き乳児院に子どもを託そうと気持ちを新たにします。保護者の笑顔から、愛されていることを実感して子どもも嬉しくなり笑顔になります。ライフストーリーワークを通して親子の辿ってきた日々の意味を深く知った乳児院職員も、その親子をみて温かい気持ちになります。

子どもを取り巻く大人たちの協働関係が子どもにとって重要だと思います。

(心理士 塩田)



養育者

写真を撮った時、必ず確認したがるトーマス好きの男の子。それなら、入所から現在までの写真をいつでも見られるようにしようと思ったのが始まりでした。子どもの見える場所にアルバムを置いて、いつでも一緒に見られるようにしました。

1歳の頃は、写真と写っている人物を交互に見て確かめたりと、「見る」ことがメインでしたが、だんだんと「お散歩したね～」と思い出して話したり、「これは誰がお写真撮った？」と聞いたり、知りたいという気持ちが増しているように感じました。また、2歳半を過ぎた頃には、「赤ちゃんの時はどんなご飯食べてた？」と話題にしたり、「赤ちゃんの時もトーマス使っていたか見てみよっと」とアルバムを持ってきたりと、日常の中で乳児期の話をすることが自然になっていました。ライフストーリーワークと聞くと、何か特別なことをしないといけないのでは？と思ってしまいますが、日常で自然に話していくことの大切さを感じました。子どもの毎日が点と点ではなく、線で繋がる為に出来ることを考えていきたいです。（保育士 津川）

養育者

近年、試行錯誤しながらですが、麻布乳児院では1歳半を過ぎたあたりを目安に生い立ち整理のアルバムを作り、子どもがいつでも見られるようにしています。保護者との写真を入れたり、お友達や養育者との写真を入れたりして、それぞれ違うアルバムになっています。中には面会がない子もありますが、お願いをして、きょうだいの写真や家族写真などを送っていただけたこともありました。情報が少ない中でも出来ること、伝えられることを考えています。言葉の発達が伸びてくると、子どもたちは様々なことを質問してきます。子どもの知りたい気持ちに丁寧に寄り添い、話しをしたり、一緒に考えたりしながら受け止めています。

乳児院を退所した後は、家庭復帰・児童養護施設へのお引越し・里親委託など、行く先もそれぞれ違います。どこへ行ってもその子がその子らしく過ごせるように、心の根をしっかりと育むこととだけでなく、人と人との丁寧に繋いでいくことを大切にしています。

（保育士 横田）

注：「ライフストーリーワーク」：子どもの日々の生活やさまざまな思いに光を当て、自分は自分であっていいことを確かめること、自分の生い立ちや家族との関係を整理し、過去 - 現在 - 未来をつなぎ、前向きに生きていけるよう支援する取組みが、ライフストーリーワークである（参考：ライフストーリーワークにおける就職前の事前学習の意義 才村真理）

養育者

新生児の頃に入所し、4歳過ぎまで乳児院で生活していた照れ屋の女の子。大きくなるにつれて、自分の赤ちゃんの頃の話を知ることが増えました。そこで入所してから現在までの写真をポケットアルバムに入れて見せると、「赤ちゃんのわたしミルク飲んでる!笑ってる!」と嬉しそうにし、「この時は野澤さんもいた?」と養育者がその場にいたかも質問していました。同じお部屋のお友達とアルバムを見せ合ったり、遊びの中でも幼少期の写真と同じように赤ちゃん人形にミルクをあげたり寝かしつけをして遊んだりしていました。また、写真を撮ると「これアルバムに入れる!」と言うこともあり、その子の中でそのアルバムが大事な存在になっていきました。子どもたちが自分の生き立ちについて知りたいと思った時に丁寧に向き合い、今後をより前向きに考えられるような支援を行っていく大切さを感じています。(保育士 野澤)

家庭支援

麻布乳児院での

「ライフストーリーワーク」の視点が展開し、発展していくのはこれからです。皆さま、どうぞ見守りの程、よろしくお願いいたします。また、麻布乳児院を退所した後にも、里親さんや児童養護施設の職員の方々、児童相談所の方々と協力をして一緒にワークしていくことになります。私たち乳児院職員ができること。乳児院に来た日のこと、赤ちゃんの頃の日々の小さなエピソード、目覚ましかった成長、保護者と過ごしている時間、お友達との交流の様子…何時間あっても足りないくらいの子のエピソードがあります。いつ、どんなふうに、どんな形でその子に伝え、必要な関わりができるか、一緒に考え、分かち合いたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

乳幼児の成長は日々早く大きく、乳児院を通過していきます。生活の大半は子どもたちの記憶に残りません。忘れた結果、施設にいた事実だけを知り、どう解釈しているのだろうと思っていました。

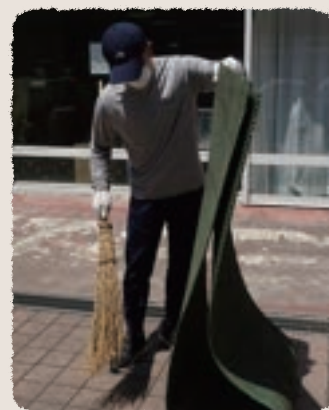
近年、振り返りのための交流を沢山いただいています。保護者の方、里親さんはもちろん、施設職員の方が察して下さることもあれば、本人の意思で来院されることもあります。関わった職員から当時のエピソードを伝えたり、暮らしていた場所を見たりしています。私たちも成長した本人に会い、その後の時間を教えてもらうことで働く意味が変わってくると感じています。伝え合うことによって人と関わりあって過ごしてきた時間とその時間が繋がってできた今の自分を認識してもらえたら、と思います。(家庭支援専門相談員 志村)

ボランティアの皆さまいつもありがとうございます！

Macquarie Group の皆様



今回、認定 NPO 法人 Hands On Tokyo を通じて Macquarie Group の皆様がボランティアをして下さいました。梅雨で蒸し暑い 6 月と、梅雨明け最高気温 37 度を記録した 7 月。6 月はお庭の雑草取りを行って、子どもたちの過ごすスペースを綺麗にして下さいました。雑草の量はゴミ袋なんと 10 袋以上！7 月は子どもたちが毎日使っているベビーカーや三輪車掃除、中庭の清掃や階段清掃まで。さっそくお昼寝から起きた子どもたちが綺麗になった三輪車を乗り回していました。蒸し暑期中、本当にありがとうございました！



養育体験棟が出来ました！

保護者の方がお子さんに会う際に、より家庭的な場所で過ごして頂けるよう養育体験棟が完成しました。キッチン、お風呂、トイレもあり、宿泊も出来るよう準備しています。お布団や家具、冷蔵庫など少しずつ揃えているところです。



雨の日が多かった梅雨時、お部屋で洗濯ものを干したり、絵具で雨を降らせたり、忙しい子どもたち。雨上がりはもちろん水たまり遊び!カエルになりきります!



編集後記

新型コロナウイルス感染症の影響で、子どもたちの活動にも制限はあったものの、より充実した穏やかな時間を過ごせるよう努めてきました。そんな日々のほんの一部ですが、皆様にお届けしたいと思います。無事、第4号を発行出来たことを嬉しく思っています。今後とも麻布乳児院を宜しくお願いします。(荻原)